

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表

令和6年3月31日

事業所名 放課後等デイサービス さかいの実

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		広さは十分である。	
	2	職員の配置数は適切である	○		基準での配置。	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○			今後新たに必要であれば設備整備検討。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している		○		職員・アルバイト全体のPDCAサイクル完璧でないためMTGに参加できる機会を設ける。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		アンケート実施後、内容確認、話し合い。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		毎年ホームページで公表。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○		社内の監査部門が定期的に監査し評価。	
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		オンラインの研修など施設内で行っている。	外部研修にも積極的に参加し、職員間で周知。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		定期的なモニタリング、日々の情報交換を行い作成。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		固定の様式を使用。スタッフ間で共有。	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		MTGでの意見交換	全職員が自分の意見を言えるよう意識を高める
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		他事業所の見学やリハの見学。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		長期休暇、祝日は普段できない活動を取り入れている。	医療ケア児も多く、体調面を考慮しながら幅を広げていく。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		個々の特性に留意し作成。	集団活動の充実。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		支援記録や申し送りの確認・周知徹底。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		原則、終了後。時間がない場合は翌日。	緊急の場合はメールや電話にて申し送り。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		記録者以外が見直し	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		モニタリング後に検討会議を行い判断	内容が大きく変動する児童はいないが、保護者のニーズに適しているか考慮し作成。
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	○			ガイドラインの再確認を行う。	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		児発管が参加。医ケアの児童もいる為、看護師も参加	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○		送迎時の情報交換は常に行い、共通理解に努めている。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	○		診療情報提供書や医師の指示書を元に保護者と連携体制。	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○		施設訪問や挨拶回りをを行う。	保育所等訪問も考慮しながら見学の機会を増やしていく。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している		○		施設入所先や障害福祉サービス事業所先の把握をし、保護者からの情報提供を参考に関わりを繋げていく。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている		○		できる範囲で研修等にも参加していく。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○	社内の他事業所との交流あり。	地域との交流を少しずつ図っていき、児童館等を利用できる機会を増やしていく。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している		○		
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		連絡帳・送迎時にお伝え。	
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている		○	相談された案件については分かる範囲で回答。	すぐにお答えできない案件は後日調査。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		契約時の説明に加え、必要に応じ都度説明。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		分かる範囲でお答えし、相談支援専門員にも相談、助言している。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○		保護者会や家族交流会等も検討。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		苦情窓口の設置・対応マニュアルを作成し迅速に対応	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		会報ではなくLINEを活用、必要時は文面にて行う。	
	35	個人情報に十分注意している	○			
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		障がい特性の理解に努め、保護者の意見を考慮しながら伝達。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○		現状は厳しく今後の課題となる。

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
非常時等の対応	38 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○		マニュアルを作成いつでも閲覧できるようにしている。	
	39 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		専門業者に依頼し、来所してもらっている。	
	40 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		職員間での研修・意識付けを行う。	
	41 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○		身体拘束の程度・状況に応じて判断、必要性を職員間で確認し、都度保護者に確認。	
	42 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		情報シートに記載、医師の指示書等で把握し対応。	基本持参物のみ摂取。イベント時等は事前に確認・承諾を得る。
	43 ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		ノートを作成し職員間で閲覧できるようにしている。	ヒヤリハットの内容の共有と事故防止に努める。